

## 入選

### やさしいところをそだてよう

徳島県 南井上小学校 一年

笠松 心織

わたしは、小学校一年生になりました。はじめは、あたらしい学校でももだちができるか、ふあんでした。でも、ともだちをふやしたいとおもったので、まいにちたくさんクラスの子にはなしかけたり、ようすをみたりしていました。

ある日のそうじのじかんに、クラスの男の子のたいちょうが、わるそうにみえました。とてもきになったので、「だいじょうぶなの。」と、こえをかけると、

「なんか、あたまがいたい。」と、たっているのもつらそうでした。

そこでわたしは、かたづけてあったイスをだして、

「そうじはわたしたちがするから、すわってやすんだほうがいいよ。」と、いいました。

そこに、たんにんの先生がやってきたので、あたまがいたいと、いっていることをつたえると、すぐにほけんしつにつれていってくれました。先生が、ねつもでていたからそうたいすると、あとでおしえてくれました。そして、

「すぐにしらせてくれて、ありがとう。おかげで、はやくげんきになれるとおもうよ。」と、いってくれました。

わたしは、ほめてもらえたこともうれしかったけれど、ともだちのちからになれたことがもっとうれしくて、しんぞうがドキドキしました。

いえにかえってから、おかあさんにそのはなしをすると、

「しおりはえらいな。その男の子は、がんばらないかんとおもって、むりをしてたんだとおもうよ。だからたいちょうがわるくても、じぶんからは口にだせなかったんよ。そのことにきがついて、こえをかけてくれたとき、きっとあんしんしたとおもうよ。そうやって人にやさしくできていたら、ともだちはいっぱいふえていくよ。」

と、いってくれました。わたしは、

「つらいときにやさしくしてくれると、わたしもあんしんするし、その子のこと、すきになるもんなあ。なかよくなりたいて、おもうもんなあ。こえをかけてよかった。」

と、おかあさんにいうと、うれしそうにしていました。

じぶんのしたことが、いいことだったとおもえると、えがおがあふれてしまいました。それをおにいちゃんにみられて、すこしはずかしかったです。

このけいけんから、まわりの人のようすをよくみて、きになることがあったら、じぶんからこえをかけられるのは、わたしのよいところなんだ、とおもえるようになりました。

そのよいてんをのぼしていくことが、ともだちをふやしていくことになるので、そつぎょうまでにたくさんのもだちができるように、これからもやさしいところをそだてていきたいです。